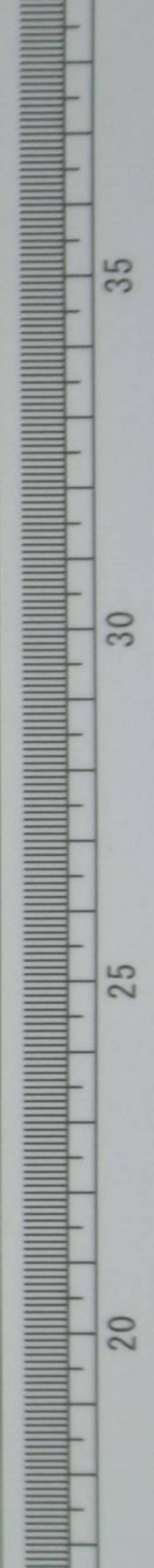


羣書一覽
五

津田文庫
文庫 1
1501
5



残林拾葉集

写本 一卷

この本のあはれき用のちし
勅撰の歌は、秋の風、秋のま、秋のふ、秋のつ、秋のく、秋のえ、秋のこ
この作者ハ山本紀内源道春と云々、元禄十二年季秋並河長
弼傳良父真字の跋、残林拾葉ハ予が友、山本山君の所蔵
すといふ、凡和歌二千二百餘首、著題の中、最難き
ものなり、後水尾帝嘗て當時の名卿を勅して、廣く著題、
歌、採各門、部、歌、立、つ、け、中、推、其、題、存、一、く、う、け、歌、採、歌、
の、を、公、卿、よ、勅、し、く、ね、日、の、補、入、給、後、書、延、宝、中、は、か、ら、く、な、か、
類題和歌集、賜、一、紙、惟、二、三、直、臣、の、家、に、傳、つ、く、民間、は、あ、り、
と、い、ふ、下、の、もの、歌、の、水、戸、候、君、の、考、舟、本、子、は、令、一、垂、相、日、野、
公、に、誦、く、其、書、故、謄、写、す、し、れ、い、く、君、の、家、亦、あ、る、の、書、日、野、
公、に、誦、く、り、君、固、和、歌、採、好、む、す、か、ら、ち、別、は、り、れ、歌、採、存、一、く、
歌、採、の、と、お、し、く、二、冊、十、蓋、す、の、歌、と、實、す、と、い、ふ、
歌、採、の、と、お、し、く、二、冊、十、蓋、す、の、歌、と、實、す、と、い、ふ、

明題和歌全集

十五卷

今川了俊の作なり、古字が六卷、うゝいハ二八明歌と号す、
以、は、十、六、代、の、集、歌、の、を、採、用、ひ、る、也、
今、刊、ハ、八、十、五、卷、を、な、ら、
雑の部乃下、短歌、長歌、旋頭歌、混本歌、折句、
俳諧の諸作とのせり

續五明題和歌集

写本 六卷

一、か、り、撰、者、と、云、ふ、一、か、り、と、云、ふ、氏、親、撰、と、云、ふ、は、書、ハ、二、十、代、
集、中、に、風、雅、集、新、十、載、集、新、拾、遺、集、新、後、拾、遺、
集、新、續、古今、集、以上五部の集の歌採、
これ、あ、つ、て、近、體、の、と、云、ふ、の、あ、

題林抄

写本

二十六卷

六家集類題

六卷

俊成トシユキの長秋詠藻 定家トシユキの拾遺愚草 同トシユキ外 家隆トシユキの壬二集
俊成トシユキの月清集 慈鎮和尚の拾玉集 西行法師の山家集 以上七
部の集の歌枕合せくこれなり

三玉和歌集類題

七卷

俊相原トシユキの柏玉集 西三余実隆公の雪玉集 冷泉公トシユキの珀玉集
以上三部の集の歌枕あつてこれなり 松井幸隆
これに彙び日九トシユキの峰谷トシユキ又玄子トシユキ結なり

新三玉和歌集類題

二卷

松尾院トシユキの西葉集 中院通茂公の老槐集 鳥丸光業公の栄葉
集以上三集の中の歌枕採ひてこれなり 其書體三玉に
これなり 以て新三玉集と稱す

三槐和歌集

一卷

新三玉集の例トシユキに似て中院通村公日通トシユキなる日通トシユキ公の

集類題トシユキす意延の跋あり

千首類題

写本

二卷

尾崎雅嘉

為家千首 正徹千首 松尾院トシユキ抄千首 天文千首 慶長千首
元禄千首 貞享千首 享保千首 寛延千首等の歌枕合せく
これなり 上巻八千首部類例トシユキなる下巻八混雜トシユキの歌枕
類題トシユキなり

續撰吟和歌集類題

六卷

一本 同上

原中トシユキ撰撰吟和歌集トシユキの頃乃禁裏の侍令諸家トシユキに撰致其餘抄
下トシユキ書記トシユキなるを雅世トシユキの歌枕も和書トシユキに採りて
小白親トシユキのトシユキを採りてこれなり 此の右書トシユキも列トシユキに
の體トシユキあつて袖トシユキなるを寛政トシユキに採りて

新續撰吟和歌集類題

写本

二卷 同上

文明永正大永代頃トシユキなる諸家トシユキに撰致るを採りて
とすし書記トシユキの採りてこれなり 採りてこれなり

和歌

百寮和歌

百寮和歌

写本

一卷

高大夫實良

拾遺園白太政大臣左右大臣大内卿言等

大申少将按察使大宰帥六位等

百廿餘首の歌なり此作者高大夫實良無何人なり

易然集

写本

一卷

寛文十二年壬子冬竟寧ら

文明の山林裏屏風の画の如し其款乃孔子

楊貴妃 赤壁 陶淵明 黄河 老子 楓橋 唐堯 涓濱

作者ハ 水尾院 西院 近衛基澄公 照光院道晃院

飛鳥井雅章 日野弘資 烏丸光雄 中院通成 白川

雅高王等 詩の如し 菅家 芳野山 聖徳太子 天橋

弘法大師 須磨浦 道風 神泉苑 暗明 武藏野

五中入信り信せしめられたる易然の歌号ハ

院の勅号なり 幸山寺同集

子易地則然

や

文明易然集

写本 一卷

松秀の信り信せしめられたる

集の辭

めハ文明序屏風詩歌

はよハ明易然集

續撰吟抄

写本 六卷 三本

和書部五

十二

の左は傍書すは一促... 學者の好むものなり... 下巻は
古の記の終の... 日本紀の終の... 天明の年秋秋諸
これの自序同三年八月大江魚足直字子の跋あり

日本紀歌解

二卷

宇治五十槻

日本紀の... 終の... 天明の年秋秋諸... 宇治の原野...
大... 今... 終の...

續日本後紀歌解

一卷

同上

知中の外題... 萬葉集乃考... 天明の年秋秋諸... 宇治の原野...
天明の年秋秋諸... 宇治の原野... 興福寺の

僧徒のたて... 長歌の... 天明の年秋秋諸... 宇治の原野...

の國人田内秀真... 天明の年秋秋諸... 宇治の原野...

萬葉緯... 天明の年秋秋諸... 宇治の原野...

本紀の... 天明の年秋秋諸... 宇治の原野...

竹取翁歌解

一卷

同上

萬葉集第... 天明の年秋秋諸... 宇治の原野...

和書部五

才四卷 新女歌仙 才五卷 後女歌仙 才六卷 職人歌仙

集外歌仙

一卷

平常編 東野州 津守國冬
 宗碩 月村命 永閑 能登
 道灌 大田 長慶 之母 宗卷
 昌俊 佐川 尚證 惣社 長嘯 東山 宗祇 種玉房 心敬 比慶 山住 志
 其土佐 根井 肖柏 牡丹花 親當 磯川 冬康 之母 紹巴 比江 有 示 牧
 玄吉 細川 心前 元就 毛利 氏康 北条 晴信 武田 氏政 北条
 氏真 今川 昌叱 里村 政一 小堀 貞徳 道遊 弟
 奕書 之云 右 歌仙者 依 東福門院 之所 懇 乞 之 被 慰 申 條 宗 長
 者也 寛文五年二月下旬 交野内 近 氏 子 之 院 所 次 了 了 合 抄
 野蓮 長 被 製 畫 圖 与 各 合 符 年
 職人歌仙 一卷 烏丸光廣卿

医 陰陽 佛 經 綴 治 番 匠 刀磨
 漆 巫女 盲目 漆 壁塗 付 搔 蓮 打
 塗 杉 杉 杉 針磨 珠 粒 引 桂 女 大 京 人 有 人
 海士人 具 足 屋 糸 心 皮 心 徳 心 心 靴 心
 筆 結 扇 屋 彫 物 心 綾 心 笠 心 桶 結 杉 打
 如 人 已 上 哥 一 首 行 八 二 首

三十六貝歌仙 写本 一卷

忘 貝 小 貝 梅 花 貝 規 貝 片 貝 抱 貝 累
 貝 小 貝 一 種 貝 小 貝 規 貝 溝 貝 馬 刀 貝 花
 殘 貝 小 貝 十 種 貝 海 松 貝 松 貝 烏 貝 雀 貝
 都 貝 宝 螺 貝 小 貝 浪 前 拍 貝 小 貝 塩 貝
 仙 金 玉 抄 二 卷 以上 之 貝 袖 貝 以上 之 貝 一 首

後大納言通具 俊成 後成女 入内つ 有系つ 定家

家隆 通光 具親 雅徳 寂蓮 秀休 西リ

けく自讃のしよのく十首とらひりり○光廣つての耳底記

よとく向自讃号ハ推考ありしを答ふれどもあつぬかたぬ

くれえりしむさわさるゝ外題たよたよつ○或の云自讃

カク其ゆハ自讃より外題の書よりすみさか内府ハ歌

哥ハ保人の不ぬく土機シセンの書よりすみさか内府ハ歌

自讃よりすみさか内府ハ歌 明月記よりすみさか内府ハ歌

依伴撰自讃歌十首シのや通ユ用ユ之キ

自讃歌註 一卷

宗祇はゆの位なり 奥書ハ文明十六年宗祇在利トシ

これの序あり 自讃歌飛鳥井抄 写本 一卷

とらまはしりしもの一巻のなりす

自讃歌抄 写本 一卷

東野ハ平常縁の位なり 奥書ハ

自讃歌管注 写本 一卷 六二筆 菴惠南

かかの自序ハ自讃ハ保人の不ぬく土機シセンの

たひりりハ自讃ハ保人の不ぬく土機シセンの

ぶりりハ明月記ハ保人の不ぬく土機シセンの

ふりりハ宗祇はゆの位なり 奥書ハ

系入て秋伝の骨髄とありしを秀逸シハ

しりりハ自讃ハ保人の不ぬく土機シセンの

おらりハ自讃ハ保人の不ぬく土機シセンの

るりりハ自讃ハ保人の不ぬく土機シセンの

和歌集

歌の法式歌字最要のしども何れもせられしる巻の序の

一 義部 六義 序代 短歌 反歌 旋曲 混本

二 作部 歌合 歌合 書様 題 判者 序者

三 清書 枝葉部 天象 叶節 地儀 居處 衣食 雜也 又

四 言語部 世俗言 由備言 料言

五 名所部 山嶺 松林 河沙 社寺 あり

六 用意部 一巻のいすづくをいづらうらひのし

寛文元年刻

三巻 四本 藤原清輔

奥儀抄

刊行のしるは八巻より和歌の式万葉古今集等

と釋す歌道至要のちりく五家髓の一なり

集の撰者として清浦の子孫の撰りて書は清浦の

前和歌得業生柿本躬貫撰と作名ありて五家の

髓といはれし所抄は新撰髓といはれし所抄

仲実詩語抄 清浦奥儀抄といはれし所抄

名抄又傳秘抄といはれし所抄

巻之上 六義 六體 三種作 八不 冬句 連句 隠題

巻之中 拾遺歌 拾遺歌 拾遺歌 万葉集の

巻之下 古今和歌の序 巻去ふし和歌の

和歌字比校といはれし所抄

代衣草子 四巻 同上

真字子と假字とをとりて和歌の作法をいふ

和歌集

和書部五

二十五

めて金葉千載のむらじりてはるはつげくひのむらじりて
これにたづぬあつりてはるはつげくひのむらじりて
慈法和尚のむらじりてはるはつげくひのむらじりて
和歌集のむらじりてはるはつげくひのむらじりて
いふはるはつげくひのむらじりてはるはつげくひのむらじりて
のむらじりてはるはつげくひのむらじりて

新撰髓腦

一卷

大納言公任

うけ病のむらじりてはるはつげくひのむらじりて
いふはるはつげくひのむらじりてはるはつげくひのむらじりて
納言公任 自筆 今書 字平 右 乃 彼 文 矣 考 後 有 亦 有 長
為秀

古語深秘抄

十卷

歌学の書十九種抄りつゝ刊行す 惠友一雄の序
いふはるはつげくひのむらじりてはるはつげくひのむらじりて
いふはるはつげくひのむらじりてはるはつげくひのむらじりて

いふはるはつげくひのむらじりてはるはつげくひのむらじりて
秘すはるはつげくひのむらじりてはるはつげくひのむらじりて
歌経標式 喜撰和歌式 孫姫和歌式 石見女式
いふはるはつげくひのむらじりてはるはつげくひのむらじりて

秘藏抄

三卷

躬恒作

古語のむらじりてはるはつげくひのむらじりて
いふはるはつげくひのむらじりてはるはつげくひのむらじりて
いふはるはつげくひのむらじりてはるはつげくひのむらじりて

新撰髓腦

一卷

公任卿

草本は類は名名のうけ四季雜し ち十二月名名のうけ
和歌肝要 一卷 後編
和歌諸作 四病八病 十建保二年 永仁四年 かの奥のうけ

群書一覽

和歌式 定家卿 心風体抄 同上 和歌庭訓 同上

八雲口傳 為家卿 和歌口傳 家隆 血來風体 良基云

已上六部各一巻ともよりの古語係おのちよる

詠歌大概 一巻 定家卿

歌御詠下らんわねおけりひのほあしーくねるぬゆ才七の侍子
梶井ふさ快活枕まよをせしとよーちかきりー頓何のおよ
んーしー興よ秀歌伴大畧百餘首との丁よめく他者御詠詠

詠歌大概抄 二巻 二本 細川幽齋

玄音法下れけし興書うろ久我垂相いおけ海すらこのー作
らまーかきりーうろかきりーもけりーよたいかひやせーよあめくひ
ぐーかきりーはるる今ろあきぐーろ光徳因府志子伊藤教の時
のまよおれろよよとろーしーかきりーい如くーこれやーしーしー
め二冊のあーけぬえん心十ろ丹ら隠士云音云

未来記 雨中吟 一巻 定家卿

定家卿の今四季恋とめく十首しとろめよ前和歌得業生柿本貫
躬ーしー他者とーおけりーし書ば未来記と稱ヤーしーんをい生
乃もどろ教を前すまよきまよーは長きく優ーしーく
又やこーきさかぬいぬがぶしてたひすー新らーたく
し前ーもよんしすゆー却く邪説よとむさすれはなぬ詞と
しけはかぬ名石ま本ホをーしー又近代の秀字をぬすーし
てんかろー詞をいーあくよのーしー家此庭訓を優ーし
達のとろーしーろあきけりーろはまろせくめけりーく
けりーしーろ考ーしーろけりーしーろけりーしーろ前
ろの興業の他者もすろけりーしーろけりーしーろ前
の他者ぬすーしーしーろあきけりーしーろ雨中吟十七ろ
家つる自詠と興よし同作けりーしーろ好いもろし
たーしー世至しーしーろあきけりーしーろけりーしーろ

群書一々見 和書部五

和書一覽

うやめす... 宗祇... 子細... 雨... 山河草木... 幸隆...

未来記雨中吟聞書 写本 一卷 松井幸隆

山圖書ハ中院大納言通... 幸隆ホリ...

三部抄 四卷 定家卿

詠歌大概秀歌大略百人一首... 雨... 風...

三部抄の抄 五卷

詠歌大概上下 百人一首上下 未来記雨中吟 一卷

三部抄増註 十卷 加藤殷齋

和書部五 三十二

宗祿齋の古抄

宗祿齋の古抄に般若齋の増記あり貞正の説に云く奉り

和歌七部抄

八卷

詠歌大略一卷

秀歌大略二卷

百人一首二卷

未来記兩中吟一卷

三体和歌一卷

結題百首一卷 定家卿の在りし 承應元年十一月刻

兼元抄

一卷

定家卿

卷首に「つんそらひくや」の句ありてこれより一は
おろかなんよめいさめいさたすけとくまきつげけりといさ
ころれいもなきたるこころをいふけりては
みよすのいさなりきまはきり末の世に信後頼朝補佐
後成すの風作のやと浦いみんこれより二とあり
いハ七八首のめきりて秀歌の作とす
奥のちと承元は自征夷將軍依波尋丈人所注送之秘本也
弘長二年九月老後更書写之と代撰者兼元融覚判○融覚は
家卿の法名也

定家物語

一卷

初に事績のゆゑに法よ万葉古今管家万葉ホのゆゑ奥のちと
以京極中御言入たるゆゑにちま子平了和とくお秀を判

三五記

二卷

初に事績のゆゑに法よ万葉古今管家万葉ホのゆゑ奥のちと

上巻 歌の御のり 十神入これゆゑに三十八御とあり

下巻 下巻の御のり 當冠の御のり 親向御の御のり 建保五年九月五

日記の御のり 千遠老翁の御のり 約法を立判とあり ○按ずるに書

定家卿の他より一は御のり 依りて一は御のり 鳥丸法皇の御のり

いづれと三五記とありて奥書のやゝあり不審しとあり

愚秘書

二卷

これハ法を法と二巻ありて

本の巻 十八作
 末の巻 目録あり
 とくみちの撰集あり
 懐紙書様のものあり
 合合上のものあり
 百十ヶ条目錄あり
 貞享五年十二月十七日
 記す
 定家判又為家お氏おの奏まいた

桐火桶 二巻

後成のを河野も定家つれ
 赤人の字 業平 貫久
 基俊 信成 西り 慈光
 飛信 秀経 鎌倉右府 小町 伊勢 菅原胤 後成
 一人これ二そ二そ
 一は二は
 二は二は
 三は三は
 四は四は
 五は五は
 六は六は
 七は七は
 八は八は
 九は九は
 十は十は

すれらら書のもの
 桐火桶
 夜のこもた
 白き海衣のす
 桐火桶
 実もの
 桐火桶
 実もの
 桐火桶
 実もの

新書一覽

入んけせす... 依... 今

藻鹽草

二十卷

月村齋宗碩

一 天象 二 時節 三 地儀 四 山類 五 水邊 六 居所 七 國世界 八 草部 九 木部 十 鳥類 十一 獸類 十二 虫部 十三 魚部 十四 氣形部 十五 人倫 并 異名 十六 人事部 十七 人事雜物 并 調度部 十八 衣類部 十九 食物部 二十 詞部

續藻鹽草

十卷

東野州聞書

一卷 五本

東左近大夫平常縁... 常縁は存... 了る

幽齋聞書

二卷

家傳の... 宗依... 一冊の... 二冊の... 燭明

徹物語

二卷

群書一覽

和書部五

三十一

新編

才四巻より才五巻までのついでに、
かゝる代者つきのついでに、

和歌寄書

二巻

一名歌通人物志といふ人丸ある時代とて、
あせおほおのくれば、
のせし代者つきのついでに、

詠歌大本

五巻

廣澤の長考より内人風觀有長雅へ付了り、
のく長嘯身ほきなる等のうらみ、
のく長嘯身ほきなる等のうらみ、

題讀曲切紙

写本

一卷

四季恋雜の札のよきせは八通の切紙、
稀かりの切紙四通り、

又紙の用より切紙五通より、
ふく風觀有長雅を首は下より、
のく長嘯身ほきなる等のうらみ、

皇統尊諱等讀曲切紙

写本

一卷

神を三白より、
人ののよきせは、
道く至宝、
古青市利、
二月長、

姉小路式

写本

一卷

群書一覽

和書部五

四十五

新書一覽

四十七

傳の字 和傳の故合 之曙之夕の飲 飛舟推章の言の記り
集外新伝のふとのせしり

才之の巻ハ 海子相伝の真 紙経冊書信 折巻の経冊の
の十箇 屏風押の紙の才のふとせしり 一尾の巻のふとせしり

渚ハ玉 五卷

くわの 傳のふとせしり 家の代集秀飲 言のふとせしり
もとの 傳のふとせしり 家之代集秀飲 言のふとせしり

七諭 十如是 二十ハふの いらは四十七そ 撰り合
曙夕暮 百首 大社も何とせしり 一尾のふとせしり 宝ふ四時刻

鴨の羽搔 二卷

此書ハ 二體 三夕 四季 四隅 五行 五と 八景 十如是
十二月花多 廿一代集巻の巻軸飲 九十賀のふとせしり
才の 一とせしり 一のふとせしり 一のふとせしり

柏傳

一卷 野田忠肅

柏のふとせしり 柏のふとせしり 柏のふとせしり
のふとせしり 考のふとせしり 柏のふとせしり
てこれとせしり 柏のふとせしり 柏のふとせしり
のふとせしり 柏のふとせしり 柏のふとせしり

歌裏井蛙談

三卷 百番言端

歌裏のふとせしり 大木おのふとせしり 柏のふとせしり
のふとせしり 柏のふとせしり 柏のふとせしり
のふとせしり 柏のふとせしり 柏のふとせしり
のふとせしり 柏のふとせしり 柏のふとせしり

歌林記識編

同上

洋書一覽

和書部五

四十八

和歌道

大泉 地儀より 多敷草本よりきて近侍の...
何れも... 他者より...

歌林雜木抄

六卷

同上

四季の題部... 長伯七部の書と稱す

和歌麓の塵

三卷

同上

此書ハ... 雜の部...

和歌道

寛政十二年上本十

一卷

卷首の業雅讀方... 可有外兄可...

増補和歌道

九卷 四本

河瀬菅雄

業雅の道... 才七老... 名不れ...

和書部五

君書一覽

必行并々其あまの浦にたのむるは
くつ昔のうらみあをせしるあなま
酔もたき河津若花自序あり

ては大概抄 一卷

てはとらやまけくまの古歌川に
糸のてなはつてははおもひの
海せうてははらまは出似葉と
とるく其木ろの葉もあまの
寛永二年刻

和歌童謡歌抄 一卷

ねらのよもてはてまのゆか
五音の図はまて堅横の相通
はらぶれも児女のとては
こいぬがふりしははま

てははいひのま 一卷 本居宣長

言葉のむの緒 七卷 同上

てははいひのま 一卷 本居宣長
いひの圖はまて堅横の相通
はらぶれも児女のとては
こいぬがふりしははま
言葉のむの緒 七卷 同上
てははいひのま 一卷 本居宣長
いひの圖はまて堅横の相通
はらぶれも児女のとては
こいぬがふりしははま
言葉のむの緒 七卷 同上

玉のり 一卷 同上
此書の二十一代集のねは近體のしは内
のりや

群書一覽 和書部五

和歌一覽

ついでに虚詞のついでに...
ナホを...
とらけ證歌の二十一代集の...
序と寛政己酉の春有賀長校の跋...
和歌實踐集

和歌實踐集

五卷 同上

二十一代集の...
冬より秋まで...
類集...
人の類...
寛政辛亥...
梓行す

濱

一卷 同上

天象 方位 地儀 居所 草木 鳥獸 人...
器財 衣食 虫 地

和歌玉柏

二卷 度會常夏

二条家...
異名分類抄

四卷 入江昌喜

天時節 居所 器財 衣食 虫 地
神祇 人倫 草木 鳥獸 虫 地
考...
今...
和名...
今...
和名...
今...
和名...
今...

歌意考

一卷 賀茂真淵

和書の上代の...
和書部五

和書部五

春言一覽

此組歌集何人の撰か... 一首通抄より二三首五
七首十首二十首百首... の此を...
序の用と偽... 附抄の名不考を國... 此名不考あけ...

和歌題辭要解

一卷 伴蒿蹊

四季志雜の此の解... 一巻... 伴蒿蹊

枕詞燭明抄

三卷 下河邊長流

此書作者の不知り... 萬葉集時代... 枕詞燭明抄... 卷首... の序

冠辭考

十卷 賀茂真淵

此書ハ花... 名目... 冠辭... 此書五音五十字... 考... 記日中... 近... 考...

冠辭考續貂

七卷 上田秋成

真淵の冠辭考... 續貂... 自序... 物尾... 寛政十二... 建涼代山

詞草小苑

一卷 建涼代山

和書部五

五十六

刊本ハ天和四年山陽重顯の跋に云く按ずると古今和歌集の真字序
は大津皇子の御作なりと云ふに人才子の風と慕ひ
塵の儘に傳へて文に云く日本のは賦ハ大津の白王子の御作なりと云
ふものなり今此集に及ぶは大津皇子より先ハ大友皇子の御作
のせり云々されと皇初ハ大友皇子と祖と云ふこと也
文華秀麗集 写本 一卷

經國集 写本

六卷

和書部一覽二十卷 良岑安世滋野貞主等の撰 今存す
殘缺の半ハ卷の目錄に左ノ本
卷第一 賦 大上天皇春江賦 滋野朝臣貞主重陽節神泉苑
賦 秋河哀應製 五ノ十七首

卷第十 詩九 樂府 大上天皇塞下曲 一 惟春道 賦得深山

寺 應大上天皇御製 一ノ五十九首 平城天皇 詠殿前梅 一 文章生 八

卷第十一 詩十 雜詠 位下藤原朝臣令緒早春途中 一ノ五十六首

卷第十二 詩十二 雜詠 大上天皇 雜言九日 菟菊花篇 一ノ伊水

氏 五言冬日友人田家被酒 一ノ四十四首 卷第十四 詩十三 雜詠 四 野岑守五言奉詠 大ノ一 滋野貞主 五言 通

和播州淨長史丹治中得絮柳請植 大將軍前院之作 一ノ四十九首 直重磨の對策 一ノ一 二十一首

○第一卷の奥書に曰く康永癸未之歲初秋上旬之候於西郊島居粗技
雙言之點書之之詔尚以有疑此書蓮華王院室藏之本也 應古以來
魚握歌之人金玉之聲久埋塵埃之底 卷軸多々紛失取遺僅上

帙二卷 第一第十 下帙五卷 上二十二 下二十四 二十一 乞 上古之篇什興味
尤深仍軸相子書字之畢○按すくは真まよれど殘缺七卷
カレも今やくオニ十一卷切りカヤるり○卷首より東宮字
士後五位下遊野朝臣貞主の序もくも後 詔に三位行中納言兼右
近衛大將春宮大夫良岑朝臣安世令臣等鳩訪斯文也詞有精
麗濫吹瀆辨文非一骨備善雜多又自慶雲四年迄二十天
長四載作者有七十八人賦十七首詩九百十七首序五十一首對策
卅八首分爲兩帙編成廿卷名曰經國集之し又先八秀麗者即
不刊之書也彼取漏脱今用兼收人以對ふ文以類聚之○此書
以經國集と云ふハ甲一序中の文より楚漢以來詞人踵武洛
泗江左其流允隆揚雄法言之愚破道而有罪魏文典論之智終國而
無究之○此序中の秀麗と稱す書ハ文章秀麗集なり○今存
す所の殘缺のハ六卷の中のものす所のハ二百餘首なり代化者弘仁
帝の序も右大臣常大納言弘參源明等とのくくすの年終り

す常十六卷弘十五卷明十卷中かき入同帝の序も右大臣常大納言源
明のハ女惟氏より餘松十人なり○此書の撰者遊野貞主と長は
秘府略十卷切りしや

無題詩集 写本

三卷 一本

御室書籍目錄は本朝無題詩十三卷と云くその撰者何れ
さすれも今存すくは殘缺と云り今かよのす所のハ二百
七十首其中太政大臣忠通公のハ九十首とのせり又その納言通智僧
蓮禅等のハも多くと云ゆのす○卷首より序もくは一と云階蓋其葉
と云す

本朝文粹

十五卷

藤原明衡

本書十四卷總目錄一卷切り了十五かす嵯峨天皇の弘仁年中よ
り一條院の寛弘年中より了十五代二百餘首の個人才子のハ切
採部類切りて編集す卷より諸體切ら賦 雜詩 離合 迴文
三言より 詔 勅書 官符 論奏 序 讚 論 記 祝文 落書

都良香の文集あり富士記に山書中とあり○菅公の良香河の

菅家文章

十二卷

菅原贈太政大臣道真の詩文集なり才一卷より才六卷までハ詩
才七卷より才十二卷までハ文なり奥書云々文承元年八月八日
進北野廟院寛文三年一未六月洛陽後学慮菴福春洞跋又元禄
十三年水戸府中村顧言校訂菅家文章の跋云々我水戸西山公
篤好字古每以印本文草詔簡多往有不可解者為遺憾久之
獲一善本於某所欲廣于世乃命聽制剛氏校訂登梓於是填
其闕正其訛云々如其後草絶而僅有嚮搜京師鎌倉得後草
二部亦昇坊向以資校讎云々○按才一御室書目詩家の都菅
家文集三帖又菅家文章十二卷とあり菅家文集ハ銀勝朝權
の次ハ載り共ハ是善御校とあり

菅家後草

一卷

此後草ハ菅公太宰府に貶任せられたりハの抄也なり○林直
春の本朝神社考に曰平生所詠和歌曰菅家御集其詩文曰菅家
文章其在宰府所著詩文曰菅家後集○註曰御集一卷文章十
二卷後集三卷又別有菅家日記○扶桑略記曰昌泰三年庚申
八月十五日右大臣菅原朝臣上状奏進家集二十八卷○菅原陳經
菅家御傳に曰昌泰三年八月十六日献上家集合廿八卷○註曰
祖父清公菅原家集六卷親父是善菅相公集十卷道直ハ菅家
文章十二卷○按才一菅家文集十三卷とあり菅原道直ハ
菅集十二卷ハ後集一卷ハ合せたりハのなハ林直の記ハ
才三卷とあり菅原道直ハ今行ハるハの一卷ハうけ残缺ハ
今代刊中ハ黒川道祐のものとあり

三教指歸

三卷一本

釋空海

三教ハ釋氏李氏老子ハ孔氏なり指歸ハ一ハ海なり○卷首ハ自序ハ
聖者聖人教網三種所謂釋李孔雅淺深有隔並皆聖說若入

卷三 東 論對
 卷五 西 論病
 卷四 南 論文意
 卷六 北 論對屬
 性靈集 十卷 同上

弘法大師の詩文集なり大分の上足高雄の真濟より撰編す山書目
 每巻の首に遍照發揮性靈集とありせり真濟の序に西山禪念
 沙門真濟撰集とありせり

第一 詩 第二 文 卷首に性靈集文章抄第一節註記とありせり
 第三 詩 第四 文 第五 第六 第七 文
 第八 文 卷首に發顯發揮性靈集補圖抄とありせり
 第九 文 第十 文 并し詩に載し十喻詩九相詩等此巻中
 あり

性靈集鈔 十七卷 沙門運啟

本集の註あり又十二巻の鈔あり作者とつぎいへり
 濟北集 二十巻 虎関禪師

東福寺虎関禪師の詩文集なり○紀年録に師諱ハ師鍊自虎関
 と號す姓ハ藤氏洛陽人なり父者左金吾校尉母者源氏皆賢行
 あり五子を生師ハ其より一なり○按ずれば虎関聚子韻略所
 ありハハ二条院の嘉元四年にあり又元亨釋書の巻末に大日
 本國平安城濟北大沙門虎関禪師撰とあり

寂室録 二卷 沙門寂室

江洲水源寺開山玄光寂室の集なり寂室ハ南禪寺佛燈の嗣法
 あり弟子なり南遊して社の中峯國師端元叟茂古林澄清持等
 の名衲に參扣せり元亨のころ五十六歳水源に於て示寂す七十八歳
 あり天龍建仁の徵命加辭一枯淡然甘んじたり名僧なり虎関
 推持はるあり二條良基を公より筆跡に賞す

梅花魚畫藏 四卷 漆桶萬里

万里の詩集なり其の自註ありその中よ平光國の註あり
 一新安手筒とあり○梅花魚畫藏ハ万里の別号なり

ちてふくし集のちもひらきしものか...
一してちてふくし集のちもひらきしものか...
醫書に梅花魚畫藏と巻は甲斐徳本の著す...
然以ては書に混す...
帳中香 二十一卷 五十本 同上

帳中香

二十一卷 五十本 同上

山谷詩集の抄し字を...
巻の抄しは梅花魚畫藏漆桶萬里編...
多本の國初のせり...
萬里博涉群書尚友古人暇日把此集以二傳焉...
中香曰昔龍樹觀華嚴而知其宗趣也吾亦觀此集而徹其奧...
也後未學者觀之必領其旨也判然然陸放翁氏所謂五國...
以香為佛事者寔非虛發是以名焉云云...
魚畫藏萬里老人講獲黃兩家之詩集於棘隱軒而作鈔日久...
矣號曰天下白曰帳中香其鈔之至精也他能決人之狐疑疑為世

河入海

百卷

東坡詩集の抄かり建長寺の住笑雪子法座主...
活字かかり○東見記曰四河入海大岳の翰苑遺芳...
玉津沫 瑞溪の勝説 万里の天下白...
藁...
且東坡夢雪...
白...
翰林詩蘆集 字本 一卷

半陶稿

六卷

此書は禪僧宜竹の詩集かり宜竹と明應のはりなり

徳これに編集す。○幸島宗意の和板書籍考に曰羅山文集日本第一の大部の文集なり朝鮮の俞秋潭日本之文章以羅山為第一と評しハ調進なることありて古今獨歩のものと評し世よ詩文として取捨しべきとの評議ありと云れども其の身としてハ父の片言隻字も漏らすことありて其の心察すべきことありて其

梅洞集

四十卷 林春信

弘文院学士の嫡子春信の詩文集なり。自撰詩集十卷 文集十卷 續詩集二十卷 共四十卷とす。竹洞友元の序ありて○春信一名懇字ハ孟著梅洞と号し又勉亭と稱す幼く神童奇材の誉ありて二十四歳に卒す此集詩文として梅洞の自撰なり。續詩集ハ弟春常これと編集す春常一名懇字ハ直民懇字と號す

讀耕全集

二十卷 林春徳

羅山の次子讀耕齋春徳の詩文集なり。春徳一名ハ緒字ハ彦復

活所遺稿

十卷 那波道圓

那波道圓の詩文集なり其長子祐生木菴守之これに編集す。門人宍軒惺恕の序ありて活所播州姫路の人なり初醫術を半井氏よりしむ心醫術を棄て惺高の門に入程朱の学を聞惺高の人の中より其名を著して肥後侯に仕へ老はむ紀藩に在すの未末に行状を附す其作者門人奥田松菴なり

老圃堂詩集

三卷 那波木菴

道圓の嗣子木菴の詩集なり。木菴名ハ守之字ハ元成父の世業と

覆荷西集

三卷 石川文山

石川文山の詩集なり。文山名ハ四六山人と号す老後ハ叡山の麓

一乘寺村に隠して詩仙堂に營む

覆醬集頭書

三卷

野間三竹

三竹字ハ子苞静軒と号す松永昌三の内人として文山の詩友

覆醬全集

二十三卷 十四本

文山の詩文集なりりひハ新編覆醬集と号す 正集四卷詩四

百首初のす文山自撰なり松永昌三野間三竹の序有り 卷首二年

譜とのす人見友え作し 續集十卷文山内人石川半助これと

偏ナ第一卷より第七卷まで詩七百餘首とのす詩の批評野間

三竹なり 第八卷より第十卷までハ銘贊書牘等とのす卷首

二野間三竹の序有り 目録と奉 附録三卷石克これ偏ナ

詩仙堂記ニ竹依の文山墓誌銘同行状寺社のセリ 弘文院学

士林子の總序正集ハ卷首よのセリ 二十卷十五本 沙門元改

草山集

二十卷十五本 沙門元改

城州深草瑞光寺の住持元改の詩文集なり 本集二十卷元改の

自撰なり妙心寺大嶽の序有り 續集十卷ハ門徒の手い出り

建仁寺通憲長老依の行状と附す 〇元改初江州志根城主井伊

氏は住へ石井平之丞元改といふ 二十六年出家 法華律儀

持し瑞光寺に住し 父母を孝有り 石川文山陳元贊の序を以

て文を四十六年 示寂す元改が瑞光寺の目録と併して 儀

儀といひ支雅といひ寔は近世の名僧なり 六卷

谷口山詩集

六卷

此書ハ草山集二十卷中 諸體の詩の 概めきあり 〇の

ヤウのヤウ別々元改の和歌あり 〇のヤウのヤウあり 〇の

ヤウのヤウあり 〇のヤウのヤウあり 〇のヤウのヤウあり

〇のヤウのヤウあり 〇のヤウのヤウあり 〇のヤウのヤウあり

史館茗話

一卷

林春信

此書漢文として皇朝の詩話文論をあげた 弘文院林氏

たきけりて近時の人紙も附く事あり
 第二卷 元和以後京師の藝文紙滿りて兼て他心及ぼせり
 第四卷 東都の藝文より一〇〇と他紙及ぼせり
 第五卷 第三第四兩卷の諸餘より一〇〇と他紙及ぼせり
 〇此書採摘する所の古人の詩ハ 懷風藻 經國集
 麗藻集 魚題詩集等なり 〇明和庚寅仲冬 拙木太玄序 同
 辛卯之春 茅清絢跋 同年上木す

醫書書類

大同類聚方

百卷

大同三年右衛門佐安倍真負侍医出雲廣貞等勅撰奉卜て撰
 全書ハ七カク今存すところ 鈔録一卷なり 〇卷首五位下典藥
 頭安倍朝臣真負 侍医從六位上出雲宿禰廣貞奉勅同撰
 〇其説曰官府のつり神代の遺方之策ありて四方に
 互少考名命の言に任せり十二方とや又一方則十三科具あり
 上古の用藥唯二十七品の名をの今一珠を附すこれ其説
 〇官藏採藥式の名紙以て之の各條を附す
 第一藥名部 二十九種 和名紙とあけ漢名紙下附す 〇良
 良 苦參 佐保比女 地黄 和太保 半夏のあけ 〇第一卷 法
 路藥 日向藥 大國藥 第二卷 長門藥 鏡藥 伊母藥
 第三卷 出雲藥 於乃古呂藥 第四卷 七藥 中藥 第五卷

銀十枚買取也性全まゝ頓醫鈔にり官庫より頓乃字の訓はとゞつたもの人からいひ本朝医考に曰握原性全何の處の人といふにせしめて鹿苑院義満公に仕へく医術に施ししり萬安方にり又頓医方十卷に撰す

頓 醫 鈔 寫本 五十卷 同上

卷首題子下は性全集の三字の奥書に曰為救倉卒之病聊抄藥方之要云病篇目之癘表良之旨趣頗確近俗言廣尋古賢之訓兼加今案之詞是則欲令見者易論也而已于時嘉元第二曆南呂上旬天書之性全○又天文十八年己酉五月中旬十二日守憲の奥書に曰○按す此書各中及録中書中り世に傳り今及入本世肅珍藏の古字中紙借閱しり目録に左よあり其書惜り八第十卷に闕○又按す黒川道祐が本朝医考に頓医方十卷とありやハ略なりしり十卷

のこりぬるはしりしり詳かしくはりしり
葉葭堂所藏頓医鈔目錄

- 卷第一 五臟六腑虛熱寒熱證治 卷第二 諸風并諸中風七處灸
- 卷第三 五臟中風形 脚氣禁好物 秘藥 灸所 萬虫食集
- 卷第四 上 傷寒序言 卷第五 中 傷寒 傷風之秘究
- 卷第六 下 傷寒 傷寒灸所 暑氣 卷第七 積聚 癥瘕 疰瘕 赤白痢病
- 卷第八 積聚 疰瘕 諸臟病 疰痢
- 卷第九 傳屍病 附 骨蒸 諸瘧 落葉 又傳屍病一灸
- 卷第十 闕 卷第十一 諸氣 五膈
- 卷第十二 諸氣 下 延壽丹 遏山丹 秘方
- 卷第十三 嘔吐 霍乱 婦人血塊 懷妊吐
- 卷第十四 五痔 并 水腫物 脹滿病 卷第十五 諸虛損 傳屍病 虛損 灸所
- 卷第十六 諸淋 遺尿 諸小便 灸所 卷第十七 喘息 咳嗽 痰飲
- 卷第十八 癩疾 狂病 卷第十九 眼 鼻 耳 又一切日病

卷第二十 羌口舌喉唇 又齒喉重舌 次下治方

卷第二十一 疝氣 偏頗 卷第二十二 消渴 內消

卷第二十三 吐血 嘔血 唾血 大小便血 卷第二十四 癰疽 疔瘡 內瘡 諸骨藥方

又膏藥方 卷第二十五 中患 卒死

卷第二十六 黃疸 卷第二十七 婦人月水以下病 長血 瘀內藥

卷第二十八 婦人中風以下諸病 卷第二十九 婦人一切難病

卷第三十 婦人求子以下諸事 懷妊之間諸病事

卷第三十一 婦人懷妊之間諸病 女人行血 吐血 尿血 下女人乳汁暫留治方

卷第三十二 婦人臨產 漏胎 產後之諸病

卷第三十三 婦人產後之諸病 卷第三十四 癰病之秘傳

卷第三十五 小兒變黃 諸風 驚痛 客忤 癩病 魘病 夜啼

卷第三十六 小兒傷寒 溫病 解懸 卷第三十七 小兒咳嗽 喘息 疹瘡 癩疹

卷第三十八 小兒五疳 疔癬 積聚 丹毒 頭瘡 白朮 蓮根

卷第三十九 小兒雜病 疥瘡 赤草 白草 穴草 等

卷第四十 諸病之禁好物

五種物 目藥 痢病藥 瀉藥

卷第四十一 家脈全要 病人生死 十種物

卷第四十二 撮要 調人 鍼灸 完色 雜

卷第四十三 五臟六腑形 五藏諸法配樣 卷第四十四 五藏六府形 五藏諸法配樣

卷第四十五 二秘方 二交接等治 卷第四十六 醫師要心

卷第四十七 諸藥功能 卷第四十八 諸味功能 清渴秘藥

卷第四十九 秘傳石草藥上下品事 諸藥調余之事

卷第五十 卷長性諸篇

捧心方 字本 二卷

卷首 漢字の序より云我邦海空の業を以て一版世すの惟和の両家の近世旁支横派道を與ていれ和家其傳の用いあり丹家の脈亦流し曉星の如く爰に梶原浄觀の丹家の師承して其右に居たり其我邦の素越人乎萬安頓医の両方より萬安ハ秘しく付く頓医ハ今世に於て一版世すの道全より一版英特の士に於て我邦の群書に嫌し船に附し

南遊す其業を大なりと其觀改る全より四傳して人より長
淳の淳ハ淳屠氏なり海峽路て以て世に婆娑する然りと才
徳の薫ずるところ以て其息は加ふなり醫術の集成すと
いふもこれか才徳は倫士といふ蓋し緒餘土直の我友中川公
俊逸穎悟の質は以て淳に依て学ぶ方論脈訣藥性鍼灸吐衄利和
の書に之を聞て求め得て觀ぶるものなり其表を承出
て直より公近代医家者流學術内は衛声南外は過韓氏肥瘠病
否の記知ずと濟世澤をこころに痛念しと惘然として方西
巻紙選一冊と捧心といふ一病と下かかず病論の脈證
りり載方といふの取録は其の取録は外ならず方脈述
て私に以て一冊に措す蓋し此書の依鼻祖淨觀公萬安方は標
準なりとく宝徳辛未仲秋日歌月史序○又同年初冬中川子自
述の後序○入跋と捧心方ハ中川子の編なりとく中川子
中川子先古道淳公の徒なり古道淳公の徒なり古道淳公の徒なり

世之偉人也與族兄竹羽價不相下鳳記○又文明壬辰季夏村菴
靈彦の跋曰名曰捧心者處已以謙耳余乃謂是西施之捧心也非東
施之捧心也觀者念茲○以書も葦葭堂の所藏を借閱しとん
抄録す

新增補遺捧心方 写本 十三卷 潤甫和尚

大文乃以南禪寺の潤甫和尚より中川子のりとせ捧心方を諸
書に比較しと藥の分量の異同増減等ありと見教而方撰補
い收めく十二卷と別は目錄一卷に附す○卷首は諸方編目と
題しと書に引用すとの書目抄録
和劑方 陳師文 斐宗元 宋崇寧中所著也當日本堀河院康
和末長流始至今天文七戌戌年及四百三十餘年許洪増は著之
濟世方 嚴用和所撰也則室祐元年癸丑奏覽之當日本後深草
院建長五年至今天文七年戌戌已得二百八十六年
醫方大成 孫允賢元延祐三年丙辰所著也當日本朝花園院心五

年后彦明附益之至今天文七戌戌年已得二百二十二年

袖珍方 明高祖洪武二十四乙亥年所著也當本朝後小松院應永二年至

今天文七戌戌年得百四十八年

得效方 危亦林元朝至元三年丁丑所編也當日本後醍醐天皇建武

四年至今天文七戌戌年已得二百二年

直指方 楊士儼元景定五年所編也當日本龜山院文永五戌辰年至

今天文七戌戌年二百七十四載

玉機微義 徐彥純劉宗厚明宣宗統四己未年所著也當日本後花

園院永享十一年至今天文七戌戌年已得百年

醫書大全 熊宗之明宣宗成化三丁亥年所著也當日本後土御門

院應仁元丁亥年至今天文七戌戌年已得七十二年

奇效良方 七人良醫明宣宗成化六年庚寅所撰也當日本後土御

門院文明二年至今天文七戌戌年已得六十九年 方賢 楊文翰

宗武 趙壇 許觀 費珍

婦人良方 陳良甫嘉熙元丁酉所著也當日本四條院嘉禎二年至

今天文七戌戌年已得三百載 熊宗之補遺著之

錢氏小兒方 錢乙內人闕孝忠編集熊宗之類證明心統五年庚申也

當本朝後花園院永享十二年至今天文七戌戌已得九十九年

本方 丹家心傳中川公躬著也則後花園院室德三辛未歲也至

今天文七戌戌年已得八十九載

右十餘方藥方功能分量加減異同具勘錄之

十二要方 徐用和明宣宗成化十六庚子年所撰也當本朝後土御門

院文明十二年至今天文七戌戌年得五十九年

嬰兒得效方 李景芳所著也明熹宗鏡梓己酉統甲子本朝後

花園院文安元年也今至今天文七戌戌得九十五年

卷一 四時之常脈 通不及之脈 扁鵲六不治 諸風 中寒 中暑

中濕 傷寒 卷十一 小兒諸證

卷十二 別集 五臟內外所因 六根秘方 諸毒 雜方 九毒論 倉耳

神應經

神應經

説用藥可否八卦配合 食忌 枕上記 養生秘訣 一医貴二世
○坂曰前の南禅の海甫和尚平時暇日必裁黄雷公法命前後扁
鹊長乘君淳于意孫真人より以て今古歴代の名医を述ぶるの群
書の萃板按集め大成して十有二卷あり 新增補遺捧心方
と号す 禅餘の系譜ありその実絶世の珍貨なり 和尚今下
をもち亡す神足景盧首座より切成名遂て郷を還るの次一語を
其志をへて措くことと需むる 永禄茅子甲子仲冬念日十二位
建仁鐵叟景秀○此書友人左藤恒安の珍藏す ころなり 借
閱し くれはありす

延壽類要

一卷

竹田昭慶

此書一卷五篇あり 養生の論食物の性味等叙せり 康正年
中竹田法印の作なり 此書は 鯛の性冷なり 何人の説より
とあり 不審なり 和板書籍考より南せり

神應經

一卷

此書本朝にて成りし書なり 下りて 卷首は和氣丹波の西医腫
物松治す 八慶の灸法松のす 松以て 何人の説より 此書は 鯛
明の第二主仁宗の洪熙元年の頃成り 當時の王子と 醫士劉瑾が
手抄經し 書かり 劉瑾が師は宏綱先生陳會字は善同 といふ
針灸の精なり 三人の作は 廣愛書目十卷あり 此神應經を
うけらるる 要穴松板より 病證松くも 一巻あり あり
その本朝の刊本は 和丹両家の八慶の灸法松卷首のせり 中
ハ朝鮮の韓繼禧が神應經の序もあり 成化九年十月日本白山殿
より朝鮮の使者松つて 其時の副使松良心の 神應
經ハ朝鮮國王に献じ 且日本の神医和介氏丹波氏癩瘡治
すハ松の法松付し 因りて 灸法を神應經の末に附して 板行
す あり 今刊本は 彼灸法松卷首のす 作者の松を
より 成化九年ハ日本後土門院の文明五年なり 此時乃
公方ハ常徳院義尚公より 義政公も在世なり 白山殿ハ管領修理大

和書部五

神應經

和書一覽

七十九

福田方

十二卷 沙門有林

卷之一 諸氣脾胃

卷之二 腹中諸病

卷之三 虛勞羸瘦

卷之四 風寒暑濕

卷之五 脚氣雜風

卷之六 傷寒瘡疾

卷之七 咳喘吐血

卷之八 前後兩陰

卷之九 婦人小兒

卷之十 七孔瘡腫

卷之十一 卒疫熱瘧

卷之十二 脈臟灸要

○此書本文自序にも片假字とてせり。才十卷の奥に有林福田方卷之十右此一巻者天文四年未六月日長圓口筆とてせり。又他の卷に守憲書とてしり。奥書にもあり。○序に曰く諸氣より終雜病よりして万病都て盡く百病悉くなくん。此方は皆て人な極ふものハ苦輪の投濟を修てせり。彼藥を用て瘡と瘡すものハ福田の善苗を植てせり。斯義は沿て方名ははらんと花喬の尊卑博く試て跡に創和の編素因とて福田に家せんとせり。今兼葭堂取藏の古字本に依ててこれなり。

袖中記秘方 写本

二卷

第一卷 中風より諸氣に至り 第二卷 諸虛より小兒に至り

○跋に曰く眼目の次為竹軒、これ袖中にしてあり。これ撰きしれこれとらして是五名家の秘す。この諸方なり。特に門分ら類を纂めその精を擇ひ其相を避く。以て一巻とす。かひなく袖中記とて思案す。此方は以て病を療せむ。とてく。驗にせむ。かひなく誠々嘉尚す。永禄十年強國單闕黃鐘吉辰 鹽菴瑞策御判。○按ず。本朝医考に曰く和氣氏瑞策真長の子なり。自通仙軒と号し又鹽菴と稱す。心親町院勅に院の字に賜ひ通仙院と稱す。僧通と歴す。これにて素絹を着て。これ聴され且和氣氏に侍つ。この医心方二十卷なり。

草全日用奇妙集 写本 一卷

慈濟軒方書 写本 六卷

和書一部

七十九

興福澄一禪師（別号）方々諸病門（方）に於てこれ等の書に於ては、清朝人の書入りの友人木世庸嘗て此方書に於ては九島の書好和尚（和）と云ふことありて、其の欲するものありて、市中に購ひて、其の賞他を大なり。

啓 避集 八卷 翠竹軒道三 道三乃方書なり天龍寺兼彦此序に於て此書は親町院の啓覽に入

切紙 一卷 同上

宜 禁本草 二卷 同上 藥性のものありて道三壯年の時乃著述なり

天心記 二卷 同上 天心乃此の配劑簿なり診視せしむるの姓名ありしものありて

刊中ありしものあり

續 天正記 一卷 同上

濟 民記 三卷 同上 先の天心記の續編なり

病門の方々を論じ、藥方に附す俗人の足るべきものありて、此の書は、道三法印の著書なりしものありて、其の書に於ては、

醫 法明鑑 四卷 延壽院玄朔

病門の方々を論じ、方論としよ、これのす。此書刊本ハ医方明鑑、作今玄朔自筆の奥書に本を就く、これのす。奥書に曰、依門生其之末授與之、元和癸亥季春中濟 延壽院玄朔印中、東井の字

延 壽 撮 要 一卷 同上

養生の要語にありて、此書後陽成院乃啓覽、其の書に於ては、

詳書一覽 和書部五

一漢氏伝古道三と稱す

食醫要編

一卷

僧元改

此書ハ深草の元改の作也 僧家食物の性味ありて

廣求經驗秘方

写本

一卷

向井玄升

眼目部 十六方

婦人部 二十方

口中部 卅三方

瘡瘍部 六十二方

小兒部 廿五方

心腹部 二十方

二便部 廿二方

損傷部 七方

癰疽部 五方

癰疽部 三方

四肢部 四方

毛髮部 四方

解毒部 三方

黃疸部 二方

耳鼻部 二方

五絶部 一方

雜病部 六方

頭痛部 附諸瘡 八方

痰喘部 附喉痺 五方

○卷首の先生金右衛門漢文の序あり 享保三年歲在辛丑後七月下弦前長崎陽項住攝板先生氏畷雲欽とあり 〇其葭葭堂藏本の跋語曰右廣求經驗方七卷長崎山西金右衛門手筆本吾郷大森氏所秘也因懇求假其真蹟摹寫以藏于家云 己酉春三月浪速末

本朝醫考

孔恭識

三卷

黒川道祐

日本の名醫の傳ありて

上卷 大己貴命初始 細川勝元初終とす

中卷 和氣丹波両流の人々 上池院竹田士田久志本 壽命院

寺の道統の人々 鍼医外科目医等

下卷 國史の人々 医藥の故實 丸散藥石の名 古代諸國

進軍の雜藥 本朝医書目録 高麗牒狀等何のす

○寛文癸卯十二月弘文院学士向陽林子の序あり 〇此書の序ありて

治瘡記

一卷

大村直福撰

攝養要訣

二十卷

物部廣泉撰

金蘭方

五十卷

菅原岑嗣撰

藥經

和氣廣世撰

君言一覽

醫心方

集註大素經

大同類聚方

難經問答

養生鈔

掌中方

倭名本草

萬安方

頓醫方

靈蘭集

三十卷

三十卷

百卷

一卷

七卷

一卷

十卷

丹波康賴撰

小野菴根撰

安部真負撰

出雲廣負撰

源輔仁撰

同撰

同撰

梶原性全撰

同撰

細川勝元

愚按下は右端の書冊今も二三部は存す嗚呼惜哉聊其名
を以て以て他日考索の便なりやとのし
契 艾未養生記 写本 二卷 釋栄西
本朝医考卷之上 白建保二年二月四日源實朝卿病りて群臣こ

安驥集 写本

六十卷 二十一本

是は患ふ時の兼上僧の釋栄西竊に二日夜宿酒の餘醒の致す
るものなりて其の辭を清茶一盞かきいひて契未養生記二
巻に献す實朝卿悦てこれに服して頓に醒 東鑑
假字にて之を療馬の書と云ふは藥方が本なり其の十卷の
末に安驥集根元ののりて馬師皇が驥禁驥讀書安誦
と云ふ五人の撰に云ふはこれなり

圓鏡 写本

二十卷 一本

圓鏡 療馬の書なり序の序の序の脈又もろくは病生死
乃病也 女驥集の序の序の序の脈又もろくは病生死
察し平仲國子孫に於て此道智恵とすて字と云ふの
たがらざるべしやと書記す何以て名を鏡とす

梧桐 写本

十二卷 一本

これ療馬の書なり序の序の序の脈又もろくは病生死
乃病也 女驥集の序の序の序の脈又もろくは病生死
察し平仲國子孫に於て此道智恵とすて字と云ふの
たがらざるべしやと書記す何以て名を鏡とす

群書一覽 和書部五

八十二

平仲國之安驥集六十卷の内、五冊撰、講出、其の、
その、九唐日本、違分明、く道具と違へ、秋の月の、
い、た、務と以て、す、准、中、の、打、
以て、す、

教訓類

管家遺識 写本

二卷

三十二條の中、重復三四條あり、仁君之要政者、以撫民為本、
リ、リ、
之法、臨期之朝儀、樂之會、式詩賦之興、歌什詠、今管神社修佛、
上春御え服乘輿之具外、蕃下商之宿客、来朝市店、朝々之文買、
大田獵山、海川澤之利、官中私園侍女之數、注刑之校、政武備之藝、
の、
お、
香烟、
以上第一卷
又放鷹鳥獵獸の、
お、
香烟、
以上第一卷
又放鷹鳥獵獸の、
お、
香烟、
以上第一卷

寶語教

一卷

淨福寺惠空の説、曰此書、作者、つ、
せ、
世、

ていつく此書ハ弘法大師の作なりといふ所のありて秘府論ニ教指帰
性靈集等就其の作なり今此の作なりといふ所のありて其の
を文意をかりて其の作なりといふ所のありて其の作なりといふ
を弘法の作なりといふ所のありて其の作なりといふ所のありて
序ふといふ所のありて其の作なりといふ所のありて其の作なり
雜筆之為往來也至若絲竹日樂府詩歌為朗詠者卷影文繁
之此序ハ花園院の文安元年の作なり其の作なりといふ所のあり
て其の作なりといふ所のありて其の作なりといふ所のありて
其の作なりといふ所のありて其の作なりといふ所のありて其の
語教不日又記之

童子教

一卷

釋安然

惠空の説いつく惠僧都先年京都より山門の法印と違て位華
經の秘註相傳せし時らかみよといふ所のありて其の作なりといふ
は誰人の作なりといふ所のありて其の作なりといふ所のありて

この故ハ和尚の作なりといふ所のありて其の作なりといふ所のあり
て其の作なりといふ所のありて其の作なりといふ所のありて其の
あつての作なりといふ所のありて其の作なりといふ所のありて
其の作なりといふ所のありて其の作なりといふ所のありて其の
の道理は此の作なりといふ所のありて其の作なりといふ所のあり
心義即身成佛義私記なりといふ所のありて其の作なりといふ所の
其の作なりといふ所のありて其の作なりといふ所のありて其の
之の作者の傳ハ元亨釋書卷之四曰釋安然ハ傳教大師の系族
秘餘蓋ハ又花山の遍昭といふ所のありて其の作なりといふ所の
凡經論ハ法藏ハ近家の馳騁するは述作するは大成ハ輔嗣
徐君正等ハ編集せし經國大典の卷之三といふ所のありて其の作
波消息書格老乞大童子教雜語本草議論通信鳩養物語

何者一巻末は忠臣譜略に附

女世子範

二卷

大江資衡

學問大意 女官品階

讀書

歌人名數

和歌法式

賢女考

婦 女中學者 詩人 文人 歌人

書學

函事

香道

貝蓋

衣服 染色 布帛 器用

琴

双六

雜祭

七夕祭の圖

何者一巻末は忠臣譜略に附

釋書類

日本靈異記

写本

三卷

沙門景戒

此書雄略帝の時より光仁帝の時よりまでの實善惡報應の事ありしを記ししなり。○卷首は日本國現報善惡靈異記 諾樂右京藥師寺沙門景戒録とあり。○自序に云く 原夫内經外書傳於日本而興始代凡有二時皆自百濟國將來之輕島豐明宮御寓譽言曰天皇代外書來之磯城島金刺宮御宇欽明天皇代内典來也然乃學外之者誰於佛法護內之者輕於外典愚痴之類懷於冥報匪信罪福深智之傳觀於内外信因果之於是諾樂藥師寺沙門景戒執職世人也乃好齋行刺利養貪財物過磁石於拳鐵山以噓鐵欲佗分惜已物甚抗頭於粉栗粒咬糠或貪寺物生犢償或誅法僧現身

釋書類

和書部五

九十一

多く本末其日まに堤河院の時にありぬ侍も
正心書抄のしるすたるふたりふたりとて
きりきり又解ふ小町乃歌して引へたり
ふ小町のうたなりて世歌のこころ人歌集の内人丸赤人家持
集かたまりのれ依秋（其次の延喜の比まの人の乃集）
ハ彼此よりしるめはめく其集か作るもの中ハ依り他
てやうつ入るもまへみりりやうものろま

畷岳要記 写本 二卷

此書古字むくく畷山開基の事実はむく

上卷 傳教大師官符木のり 十六院のり 延暦寺縁起寺

号宣旨 唐土天台山 文殊堂 経藏 神宮寺あのみ

下卷 釋如堂 西塔院 慈惠大師 智證大師 弘法大

師 義真和尚あのみ 二卷 沙門光榮

談峰縁起便蒙

多武峰縁起乃註し漢字以てこれありて全文四十三章よ
りてり卷末の錄是らの年譜附す譚峰蓮光院の沙門光榮の作
○總論より談峰縁起二本あり古縁起ハ後鳥羽院の御宇建久年中
談峰乃僧上法院永清文如製す其後ハ花園院の御宇文明年中一條
禪師兼良染筆土佐光信圖す一説光茂圖 新縁起ハ文章向の
筆者ハ寛文中後水尾院の初因て茂氏の堂上四十二人の
畫も亦勅後ひて住吉如慶回愚慶圖す○古縁起本二卷なり
元禄十二年庚辰寺務命依り栗田は竹く古縁起の修復
二卷初開く四軸より第一章茂氏始祖より第六章散魚所
圖より第七章初第一軸より第七章蝦夷大臣より第十八章賊衆
散るより第十九章日巳酉より第十九章日巳酉より第十九章賜
藤原朝臣より第二十章と第二十一章と第二十二章と第二十三章と
第二十四章と第二十五章と第二十六章と第二十七章と第二十八章と
第二十九章と第三十章と第三十一章と第三十二章と第三十三章と
第三十四章と第三十五章と第三十六章と第三十七章と第三十八章と
第三十九章と第四十章と第四十一章と第四十二章と第四十三章と
第四十四章と第四十五章と第四十六章と第四十七章と第四十八章と
第四十九章と第五十章と第五十一章と第五十二章と第五十三章と
第五十四章と第五十五章と第五十六章と第五十七章と第五十八章と
第五十九章と第六十章と第六十一章と第六十二章と第六十三章と
第六十四章と第六十五章と第六十六章と第六十七章と第六十八章と
第六十九章と第七十章と第七十一章と第七十二章と第七十三章と
第七十四章と第七十五章と第七十六章と第七十七章と第七十八章と
第七十九章と第八十章と第八十一章と第八十二章と第八十三章と
第八十四章と第八十五章と第八十六章と第八十七章と第八十八章と
第八十九章と第九十章と第九十一章と第九十二章と第九十三章と
第九十四章と第九十五章と第九十六章と第九十七章と第九十八章と
第九十九章と第一百章と

卷之上 十首

卷之中 十一首

卷之下 九首

拾葉集

写本

二卷

宴曲集等乃たつあつて了る。即曲し

卷之上 十首

卷之下 十首

拾葉鈔

写本

一卷

上ノ向 即曲十一首附のす

即曲撰要

写本

十八卷

沙弥明空

首卷ハ目錄の卷カテ其卷ニ夫當道の即曲ハ知童童の口ニ千とい万
人の耳ニさえきつたらしきも一巻ニして思老ヲ撰あつて
曲ナク其軸ナキニ付さつめりた歌百の字數ニていふ
十餘首ハ愚作の外ナラナれさらるの作者の名字ナク
あつたれあつてハ貴命ニ付しつていふたアをよみし
とさういふるもなげきさきとて都鄙のともあつてい
ちとさういふるもなげきさきとて都鄙のともあつてい

けりおほしきてはのろゝるのいふべしきよりてあつて今
録ナしとて撰要目錄の卷ニかひけりたふりたりしめ
とさういふる

宴曲集

五卷

目錄ナドヨクヨクセリよめくう略す

宴曲鈔

三卷

上ノ向

真曲抄

一卷

即曲七首付新作三首

究百集

一卷

即曲十首

正安三年八月上旬之頃録之畢

沙弥明空

及後見院宇

○右の曲の中 礼友三品作明空調曲 郭公 漸空上人作明空調曲 菟田河恋
冷泉武衛作明空調曲 源氏恋 或女房作明空調曲 三々々のくくはてしなく作
者の名御ちやう○付次拾葉集目錄のそとめけりた今ハむら
のらうつたれきい乃ちのほへおもしろいふもはら
たあゆむるすまかよ身御くしてりすはけの所名御の
むらうはらうむらうのむらうひすをけりたむらうはらうむらう

卷第六 平調曲 三臺鹽 白玉聲 萬歲樂等
 卷第七 大食調曲 散手破陣樂 武昌樂 赤球樂等
 卷第八 雙調曲 春庭樂 柳花苑 黃鐘調曲 小調曲等
 卷第九 盤涉調曲 蘓合香 萬秋樂 秋風樂等
 卷第十 同下

卷第十一 高麗曲上 新鳥蘓 古鳥蘓等
 卷第十二 角調柱次第 箏卷弦口傳事等

○此書第一卷より第十一卷までハ曲調の譜本として、
 七八九十斗為中位以下あり。○按ずると二位藤原師長公安元三年三
 月五日任元内大臣同四月一日叙從一位治承三年十一月十七日解官其後於
 張國出家 同五年三月帰京号妙音院建久三年七月十九日薨 五十五
 所著有三五要録三五要略仁智要録仁智要略
 五重序 写本 一卷
 管絃乃ちて演主の作なりとあり五重ハ毛皮肉骨髓の五

鳴鳳集 写本 一卷
 作者氏名不詳 大唐樂圖 叙名白虎通 説文 潘岳笙譜
 の説 古美吹笙者 渡本朝事 笙箏笛 高麗笛調子 琵琶
 和琴 赤琴箏等の調 撥合名 東遊 箱歌名 催馬樂 樂器
 名物 吹笙次第 始習笙事 付物事 十種供養伽陀事
 朗詠事 御遊事 秘事 調子音取等のハ成るナリ

體源鈔 写本 二十卷 豊原統秋
 豊原の姓ハ字ハ旁々として體源と名づけし。○奥書に云豊原
 統秋判之磧礫集と云豊原樂人統秋豊筑後四位下
 院實隆公の高弟なり風流のよのこ隠者なりと云雪玉集と云統
 秋身なりと云けりとの十首あり

〇昔傳松葉ノ曰人皇七十三代の天子松坂川院に於てその御はら
 序父たり此帝諸道の所勤を此に於て之を以て珠ノ管琴乃侍りて其
 ろひに於て之を夫樂道の器其品莫大なり古来の樂書に其圖形は
 らくし其又その由来なり其は松坂明せり就中近來樂道の
 達者豊原朝臣統秋といふもの亂世に於て其を及故松坂
 免く樂器の未歴松坂明して一家に傳ふる迄松坂源松といふ
 其書よきし其の書よきし〇按ずる紫屋軒宗長記に統秋贈答の
 書翰あり又統秋朝臣似悼め和歌十首法華經の題号就以く句の
 首に置るの中のものなり

胡

琴教録 写本
 琵琶の書ありこれにあり

卷之上 教学子琵琶 取換 差柱 換音 諸調子品

二卷

俗人の中にもありありものもなきものあり

十二律調 樂曲 催馬樂 師傳相承等十五條
 卷之下 琵琶彈時用意 時所作 樂屋琵琶 彈玄上用意
 琵琶宝物 琵琶名所等二十四條

〇每卷目錄あり毎條裏書日録あり其の孝道云々あり〇裏書
 あり以左近大夫將監中原光氏之秘本令書寫之秘書之間其涼
 之人有其悼仍以女性令書之間僻字等多得其意追可書改
 之 左近少將草名

樂譜要録

写本

十五卷

卷之一より卷之七まで 横笛譜 卷之八より卷之十まで 鳳笙譜
 卷之十一より卷之十三まで 篳篥譜 卷之十四 箏譜 卷之十五 琵琶譜
 〇卷末より後四位下遠江守泰宿禰昌名撰とあり〇裏書に云く保九
 甲辰年春二月浄寫了 同十巳巳年夏六月批校畢 又云右之管二
 弦譜依家々之傳本選之内有疑者疑曲暫闕之以此方集會議定
 之上可追加者也

琴曲抄

二卷

此書ハ八橋流築紫箏十三組外ニ新曲二組ヲ補ヒ一流のよ何つ付
唱歌の註釋ハくとしてそのし巻首ハ十三組に終りて箏ハ園田の
らりす元禄七年二月作者の自序に於てし箏ハ松檢校傳ののり
とくりしと云々

上卷 菜菔 梅枝 くらし 天下太平 薄雪 雪のけし

雲乃と 以上七組何表組より

下卷 薄衣 桐壺 須磨 四季曲 扇曲 雲井曲 鴉歌 羽組

以上十組し 元禄七年九月の奥書なり

換箏雅譜集

三卷

安村檢校改心のよ何とて裏表中許等の次第決定して
上卷 表組 ふき 梅がえん くらし 天下太平 薄衣 雲のけし
六段の油

中卷 裏組 雲乃と 梅がえん 桐壺 四季曲 八段の油

乱輪舌 中許 くらし 末のね 空之椀 四季の富士 雲井

下卷 三曲 四季曲 扇の曲 雲井曲 新組 羽衣 若葉 思

川 橋姫 新雲井弄齋 飛燕曲 宝曆四年刻

琴組唱歌集

一卷

安永年中ハ橋流の佳川檢校より組に補ひし新曲は
裏島檢校久米園句當相とくりて梓

表組 ふき 梅がえん 天下太平 くらし 薄衣 雪乃のけし 表組

附物 七のり くらしの 秋のえん

裏組 雲乃と 薄衣 相つば 百千子 鴉 くらし ねのき

中許 須磨 くらし 梅のえん 四季の友 同附物 十二段の

あしと段のえん 十段のえん くらしのえん

真許三曲 四季子 扇 雲井 同新曲 吳竹 夕空 八重垣

角田川放生川田村 梅枝殺生石張良 已上百番
諷 増抄 十二卷 加藤盤齋

自序云云... 寛文元年閏八月三日
○首卷 大意 了たしの起王 諷乃字諷の字は後 催るふのの
申樂のの申樂を後よりし 能作者目錄のの○し書ははす
ふ乃諷の目錄
高砂 盛久 江口 大東寺子 ぬぎぎ 赤老 ね政 東北 一百万自
法音抄 五卷 惠空和尚

此書二十二番の註記... 卷之二 實盛 官軍大鼓

卷之一 源氏供養 兼平繪垣 千手 蟻通 卷之二 實盛 官軍大鼓
三井寺 率都遊小町 卷之三 自然居士 志賀 江口 春日龍神
卷之四 相崎 山邊 姨葉 當麻 卷之五 百萬 清経 野宮
東岸居士 普願寺 正徳四年五月刻

謡曲拾葉抄

二十卷 惠南

巻首凡例云此謡曲拾葉抄は花咲と世の老の一葉軒六井自忠撰
しとくし河平もけしまねくまをとを老の死期しはれとて
つれつらび其切河とて... 四十餘のまゝに種の家... 学者よみ...
この位乃かみね勘つまもに河やうらに但けお八當流觀世の

中世に於て本文より一ふ所は、すゝめしき山拾葉村ハ劫世の山中と
本編より一ふ所のなれども、たゞを去の舟ののそと、面氣が、
うへを所除き錦本より一ふ所の餘り、いひのほり、
くれ所のなれども、いひのほり、
番の内、
七十二羽、
高砂、
竹生島、
木曾、
西行、
娘捨、
班女、
道明寺、
東岸、

右近 白鬚 玉井 八幡 難波 白樂天 呂服 蟻通 賀原
兼平 実盛 食老 紅葉狩 田村 志賀 頼政 井筒
定家 芭蕉 江口 葛城 楊貴妃 平部 夕顔 大原
雲林院 小僧 誓願寺 杜若 遊行 柳 羽衣
率都 淨土 関寺 小町 采女 佛京 野宮
松風 湯谷 藤戸 天鼓 梅枝 富美枝
船橋 通小町 盛久 女郎花 山姥
寂生石 放下 俣之輪 龍田 當麻 海人

融 三井寺 玉葛 櫻川 浮舟 角田 川百萬 柏崎 蟬丸 俊寛 景清
阿漕 源氏 供養 鶴飼 善知鳥 花笠 鞍馬 天狗 鷲 善果 大曾
春日 龍神 葵上 鉄輪 安達 原熊 坂鉢 木狸 惣計 百一番 和度
の諸書、
明和九年四月刻

太子良土産

三卷

此書今春觀世而流の謠本の文句、
乃蘇の能、
南京今御門の、
上卷 三十二番 高砂より小鍛冶に至る 中卷 三十二番 竹生島
道明寺に至る 下卷 三十六番 白樂天より放生川に至る

前の六次郎の他の遊り柳のりもけりて入るべきもの多し
下向は下の臆漸く強く休むと定免人もの共はつあり
此花傳言植字八一本あり表紙の模様が嵯峨本に類せり

